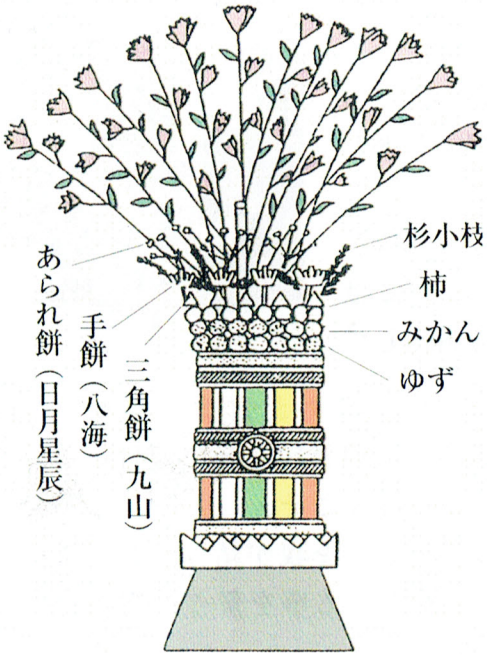


【お花飾りとは】

大聖人様の御入滅は、辰の刻（午前八時頃）と言われ、記録によると御入滅と同時に大地が震動したといいます。また秋深きにもかかわらず季節はずれの桜の花が咲き誇ったと伝えられています。

これは、御本尊の御入滅を法界の全生命が惜しむとともに、滅・不滅の甚深の御境界をお祝い申し上げている妙瑞の相と拝します。このことから、桜の花を造って御宝前を荘厳申し上げるのです。

お飾りの桜などは、仏教の世界観による須弥山説にもとづいた仏様が住まわれる寂光土を表しています。桜の花は大聖人様の仏法によって法界が妙法となる真実最高の常寂光土を具現しています。

日如上人御説法——

「今、世間の多くの人々は、今日の興廃した国内外の惨憺（さんたん）たる状況を見て、だれもがこの惨状を憂い悲しみ、様々な分野の人達が平和を願い、安穏な生活を願い、救済の道を模索しておりますが、真の解決策を見いだせずにいるのが現状であります。この時に当たり、『立正安国論』にお示しの如く正中の正たる御本仏大聖人の御建立せられた三大秘法の仏法を立ててこそ、国を安（やす）んずることができる真の解決策であることを我々は折伏の実践の上に示し、もって一人ひとりの幸せはもとより、真の世界平和の実現を目指していくことが最も肝要であります」（法燈連綿より）

興教寺御会式日程

御逮夜法要

１０月２１日（土）午後七時より

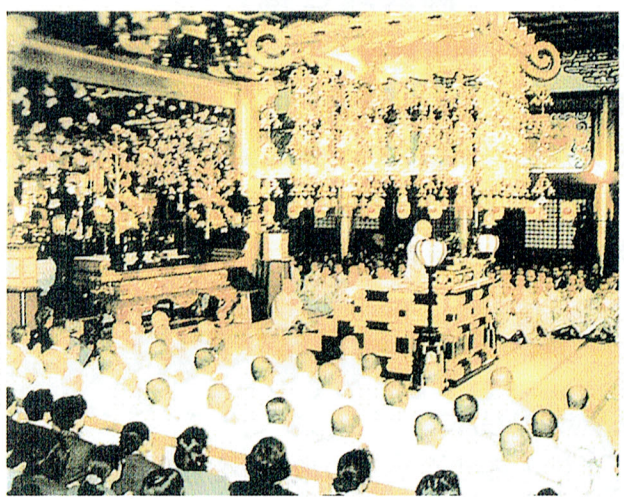
御正当会法要

１０月２２日（日）午後一時より

宗祖日蓮大聖人

おえしき

御会式



【御会式について】

《御会式とは》

宗祖日蓮大聖人様が弘安五年十月十三日、武州池上（現在の東京都大田区）の池上右衛門太夫宗仲の館において御入滅なされ、仏の滅・不滅、三世常住のお姿を示されたことをお祝いする法会儀式です。

《滅・不滅　三世常住とは》

法華経寿量品に

「衆生を度せんが為の故に　方便して涅槃を現ず　而も実には滅度せず　常に此に住して法を説く」（新編開結439）

と説かれています。

大聖人様の御生命は、人々に法を求める心と精進の心を発さしめるために、方便として凡夫僧の上に御入滅の姿を示されました。

しかし、実には過去・現在・未来の三世にわたって一切の人々を救済される久遠の御本仏として、

「日蓮がたましひ（魂）をすみ（墨）にそめながしてかきて候ぞ」（御書685）

と仰せの、本門戒壇の大御本尊様として厳然と総本山大石寺に住せられ、常に衆生を導き利益を与えられています。

《法要次第について》

法要では、住職と六人の僧侶によって『立正安国論』並びに『御申状』（国家諫暁の書）という「破邪顕正の折伏の書状」が奉読されます。この奉読こそ、日蓮正宗独特の意義深いものです。

大聖人様の御化導の目的は**「立正安国論に始まって立正安国論に終わる」**と言われ、『正法治国』という正しい仏法によってのみ、一切の人々の安穏世界が築かれるのです。

『立正安国論』『御申状』には**「謗法を対治して正法を立つ」**とのお言葉があり、奉読後、参詣者一同異口同音に題目三唱致します。この儀式こそ、一人ひとりが大聖人様の折伏精神を我が精神とし、広布へ向かって精進する事を誓う僧俗和合の姿なのです。

《法要参詣の大事について》

当宗の御会式は、七百年来、日蓮大聖人様の正法正義を血脈相伝により清浄なままに護持し続け、広宣流布に向かって一層の精進を誓う誠に重要な、日蓮正宗以外では絶対に奉修できない法会儀式です。

古来より**「御会式に参詣しない者は大聖人様の弟子でもない信者でもない」**と厳しく言われてきた大事な法要です。

大聖人様の弟子・檀那たる確固たる誇りと大いなる弘通の決意をもって、大聖人様に御報恩、参詣申し上げて参りましょう。